

分野別講座「小中高をつなぐ学力づくりで大切なこと」

参加者 8名 まとめ 根無 信行

●提案 阿久澤 恵子

「凡事徹底」（当たり前の事を徹底して行う事。極める事。）という言葉がキーワードとなる講座のスタートだった。中学校でも、ひらがな、基礎計算、ノート指導、掃除等、普段のものから行った。学校・学級目標（スローガン）は、具体的な言葉がいい。子どもに分かりやすく、子どもの動く姿が見えるから。

スポーツから学ぶ生活・学習との共通点。①共有 ②一貫性 ③継続 ④積み上げ。中一ギャップを生む課題は小中の「違い」。教師の指導の違い。提出できない量の宿題を出し、してこないのを子どもへのせいにするのではなく出すことのできる形や量に改める。中学に必要な生活力（プリント整理や提出期限の把握、連絡事項や持ち物を自分で管理する力）が乏しい子どもは、登校しづりをする可能性が高い。そこで学年通信

で細かく示したり、家庭の協力を得たりする。

中学校から小学校のうちに求めたいこと。生活面は、挨拶・返事。言葉遣い（丁寧語でいい）。掃除。学習面は、シャープペンシルでなく、鉛筆の正しい持ち方、下敷き、丁寧な字。計算力。中学校でABC型割り算を毎日習熟した学年は、高校の数学で困らなかったらしい。白い部分を残さないA型4分割ノート作りも、自分のものにした生徒たちは、自信と学力をつけていった。

卒業させて高校生になった子どもたちを追跡調査するアンケートを送ると、六割以上も回答があり、中には手紙が添えられているものもあった。中学生の教えてもらったことが力となって残り、その生の感想を今の中学生に伝えることで学ぶことの繋がりが生まれた。

分野別講座 読み書き計算ならだれでも学級経営の柱にできる

参加者 12名 まとめ 川崎 和代

●提案 岡 篤

読み読みから読解）全員参加させるには、ペア活動による交代読みや交換読みがよい。ゲーム感覚で、変化をつけての指なぞりや言葉探しも読解指導につなげるまでの有効な活動である。いきなり、「このときの〇〇の気持ちはどうですか。」と発問しても答えられない。「」のセリフを言ったのは誰か、どんな動作、表情か等スモールステップを踏んだ問いを出し、答えを板書し、その中から言葉を選ばせると、自分の意見としてまとめることが出来る。

書き

予め板書しておいた漢字ドリルからのテスト問題を見て、その言葉に○をつける、間違いやすい字に○をつける、テスト前に裏面にテスト練習するなどすぐに取り組める方法を提案された。自作の俳句とそれに合った

絵を書き添える活動、書写プリントで一字でもうまく書いていたらその字に○をつけて評価する方法で、子どもの意欲を引き出す。

計算

前の学年の復習を、月間ごとに行う。計算カードを活用、合格した子をミニ先生役にする。単調になりがちな九九の練習。他の先生に聞いてもらったり、集会で発表したりとイベント化して、ブームを続ける工夫もされた。

岡先生が、背景に困難を抱えている子にも、その子に応じた課題を設定し、小さな変化を見逃さずに的確に評価し、その子が変わっていく姿

に参加者も勇気をもらった。子どもの実態に合った方法で、あきらめずに実践しよう！